第２学年 道徳科 学習指導案

１　主題名　　「むこう岸には」 C―（１８）国際理解・国際貢献

２　本時のねらい

川の両岸に住む他国の少年と少女の物語を通して、異なる文化をもつ人々を相互に理解し偏見を持たず、尊重し合いながら、未来の平和と発展に貢献しようとする心情を育てる。

３　主題設定の理由

（１）　主題と生徒観

世界の中の一員としての自覚や役割が必要になる現代において、国際的な分断を考え、「川」を超えていこうとする姿を学ぶ。【国際理解・国際貢献】は生徒に思考経験が乏しく、自分事として自我関与することが難しい題材である。

生徒は日常の中で体験する隔たりを考え、他者と共生する自分の少し先の姿を思い描く。「隔たり」や「違い」を「他国の人や他国の文化」の既習事項と重ね合わせることで【国際理解・国際貢献】に少し具体的な姿を思い描く手助けになると考える。

（２）主題と教材観

① 使用する教材について

マルタ･カラスコの絵本による物語である。抽象化された寓話から学ぶため、抽象と具体を行き来する橋渡しが必要となる。抽象的に「人間理解や公正公平・社会正義」で括って漠然とした最適解で終始しないように資料のイラスト（黒い肌の女の子と白い肌の男の子）や補助資料（国や人どうしを分断する例）を用意し主題に迫りたい。

② 新潟市中教研「道徳部」の目指す姿と本時との関連

学習課題　構想：本教材の導入場面において、教材から問いを立てる。

手立て１【ワークシート階層１：寓話（抽象）が意味するもの→課題の具体化】により、テーマ（主題）を言語化し、明確にする。

手立て２【ワークシート階層２：少人数による話し合い】個人で見つけた問題を掘り下げ、少人数で話し合い、共有する。気づかない問題や異なる見方を得る。

まとめ　構想：展開の部分では、少人数による対話によって思考を深め、共有する。少人数から全体へと視覚化することで思考を共有し、その中から最適解（道徳的価値）へと至るようにする。「対話」と「多面的多角的に考える」手だてを講じる。

手立て３【ワークシート階層３：学習課題の共有】板書を併用して視覚化し、共有化する。

手立て４【ロイロノートで視覚化共有化を図る】「川を作るもの」の種類ごとに提出箱を設け、個人で提出する。視覚化することで問題の共有を全体に広げるため「回答を共有」で閲覧できるようにして、選んだ（あるいは割り当てた）問題の解決策を班で審議し、上位２つを決める。根拠を述べる。

手立て５【ワークシート階層４：まとめの共有】板書を併用して視覚化し、共有する。

振り返り　構想：振り返りの場面では、「自己との対話」を促すために揺さぶる問いを講じる。【振り返りに導く問いの工夫】

手立て６【ワークシート階層６７「これまでこれからの自分」】抽象化された理想は得てして、今の自分には手の届かないところに棚上げしがちである。個人の解決策として理想と現実のギャップを自覚し、自分用に具体化する揺さぶる問いを設定する（教材ごとに発明することが課題）。このように記述された振り返りをポートフォリオする。次年度の同価値教材を学ぶ際に自分自身の行動を思い出し振り返ることで、道徳的心情や理解を行動に昇華してくことを狙うものである。

４　本時の学習課題

他の国の人と理解し合うために大切なのは、どんな心だろう。

5　本時の展開

学習活動	教師の働きかけ（T）と予想される生徒の反応（S）	●留意点
【学習課題】問いを立てる。 （多面的・多角的に考える） 学びの姿 [他国の人々と互いに理解し、尊重し合うことができない背景について、他者の意見から学び、自分の考えを深める。] 導入 ・テキストを読み、教材に含まれる「課題」を発見する。	T1)「向こう岸には」を板書する。 T2)イラストに注目させながらテキストを範読する。 T3)イラストを黒板に貼り、「少年と少女の間には何がある？」班で自由に話し合わせて声を拾う。「川」「断絶」「偏見」など。 T4)「それだけ？」どんどん板書していく。生徒にも記入してもらう。 T5)川の定義を行う。既定条件として「川」の定義を行う。 T6)「川って〇〇なんだね。」板書し、プリント階層１に記入させる。 何が「川」のように人と人を分断させるのだろう。 T7)プリント階層２に書き込もう。3つは書けます。 T8)みんなの考えから班で１つ選んで、教えてください。 T9)黒板のイラストに書き込み、会話をまとめながらプリント階層３に書き込ませる。	●テキストのイラストから、これが「国際理解」の問題であることに気付かせる。
【まとめ】自己を見つめる。 （主体的・対話的で深い学び） 学びの姿 [異文化に触れた経験（人との間に隔たりを感じたような経験）などを振り返り、異なる文化や価値観を持つ人々と互いに尊重し合うことについて考える。] 展開 ・「人と人とを隔てる川を作っているもの」とは何かを考え、「隔てているものを乗り越えていく方法」を考える。	主発問〔学習課題〕 他の国の人と、川を越えるのに必要なのは、どんな心だろう？ T10)プリント階層２で出てきた「分断の元」を大別して種類ごとにロイロノート提出箱「偏見」「憎しみ」などを作る。個人で提出する。「回答を共有」にし、閲覧できるようにする。 T11)班で「階層２：分断の元」を分担して担当する。担当の「分断の元」を班で審議して上位２つを決める。発表されたものは板書する。 活動　小集団→任意集団 1 プリント階層４に個人で入れていく。班で 2 班で発表するに値する考えか検討し、発表する。 T12)回答は板書で提示。 T13)机間指導中に最適解に迫るグループをピックアップする。 3 同意する回答を選んだ生徒同士で、さらに原因や要因を探ったり、解決策を掘り下げたりする。 T14)追加の発言がないか確認する。 4 発表する。 まとめ 偏見をもたずに相手とちゃんと関わりながら自分で見たことや感じたこと、違いを大切にしながら相手を分かろうとする心。 あるいは青で囲む。 T13)板書し、プリント階層５に記入させる。	対話ではコミュニケーションボール等を用意して傾聴を支える。 １テーマを複数の班で協働させる 補助資料（国や人どうしを分断する例）を用意し、必要があれば使用する。 ●様々な視点観点から問題の掘り下げが行われ、最適解にたどり着くだろう。
【振り返り】人間としての生き方についての考えを深める。 （自己との対話） 学びの姿 [【私が】（国際的視野に	T14)板書し、プリント階層５に記入させる。 T15)進度を確認し、揺さぶる問いかけを行う。 T16)「それはすぐにできることですか？」「棚上げにしませんか。」「棚上げするためにすぐにはできないことを言って問題に蓋をすることになりませんか。」 T17)「ひょっとしたら、その「川」は自分の中にある	

立って）異なる外見や考え、行動様式を尊重し、差別や偏見をもたずに接する姿を記述する。］	からかもしれません」） 主発問〔最適解から納得解に導く問い〕 **自分自身の心に「見えない川」はなかっただろうか。** ・振り返りシートには、「これまでの自分は」「だったが」「これからの自分は」に続けて書くようになっている。 ※もしさらに具体化できる余地があれば「そのために」を追加したい。期待する方向性は以下のような回答になる。 例）土木技術者になる／英語を勉強する／リモートで会えるアプリを開発する／政治家になる／誰にでも笑顔の練習を積む／歴史を学ぶ／誰に頼むか考える	

6　生徒の姿（評価）

（1）評価方法

［評価方法］　対話の様子やノートへの記述を基に評価する。

［評価基準］　「国際理解」について考えることを通して、具体的な姿を記述している。

（2）目指す生徒の深い学びの姿

最適解　「多角的・多面的に考え」を知り、「主体的・対話的で深」く学び、自己を見つめることができている。

納得解　最適解と自分のとのギャップを見つめ、自分ならこの問題を「どう解く」かが記述されている。